

新型インフルエンザ(A/H1N1)に係る世界的状況及び我が国の状況

I WHO事務局長「ポストパンデミック」声明(概要)

1. 新型インフルエンザの現在の状況について

○ フェーズ6から、ポストパンデミック(大流行後)の状態に移行してきている。

- ・専門家による緊急委員会が、世界の感染状況や現在流行中の国々の報告を勘案して行った勧告に基づき、事務局長が発表。
- ・現在、世界的には、パンデミック期にみられた特徴とは異なり、季節性の流行の特徴がみられる。
 - －季節外れの流行が見られない
 - －流行の規模が季節性と同程度
 - －多くの国では、複数のインフルエンザウイルスが混在
 - ※ 新型インフルエンザのパンデミックでは、季節外れに、大規模な流行がみられ、他のインフルエンザウイルスが流行しないという特徴があった。
- ・いくつかの地域では、人口の20～40%が感染し、一定の免疫を獲得したことが示された。多くの国で、ハイリスク群等に、高い割合でワクチン接種が実施された。

2. 今後の予測

○ H1N1ウイルスは季節性インフルエンザと同様な動向を示すようになり、今後数年間は世界で流行が続くと予想。

○ 様々な規模の地域限定的な流行が起こり、重大な感染を起こす可能性がある。

○ ポストパンデミック初期の状況は予測不可能。

- ・今後も若年層にも重症化がみられると思われる。
- ・パンデミック期に重症化しやすいとされたハイリスク者は、引き続き高いリスクにあると想定。
- ・パンデミック期には、通常の季節性の流行ではみられにくい重篤なウイルス性肺炎を発症した人がいるが、こうした傾向が続くかどうかは不明。

3. 今後の取るべき対応

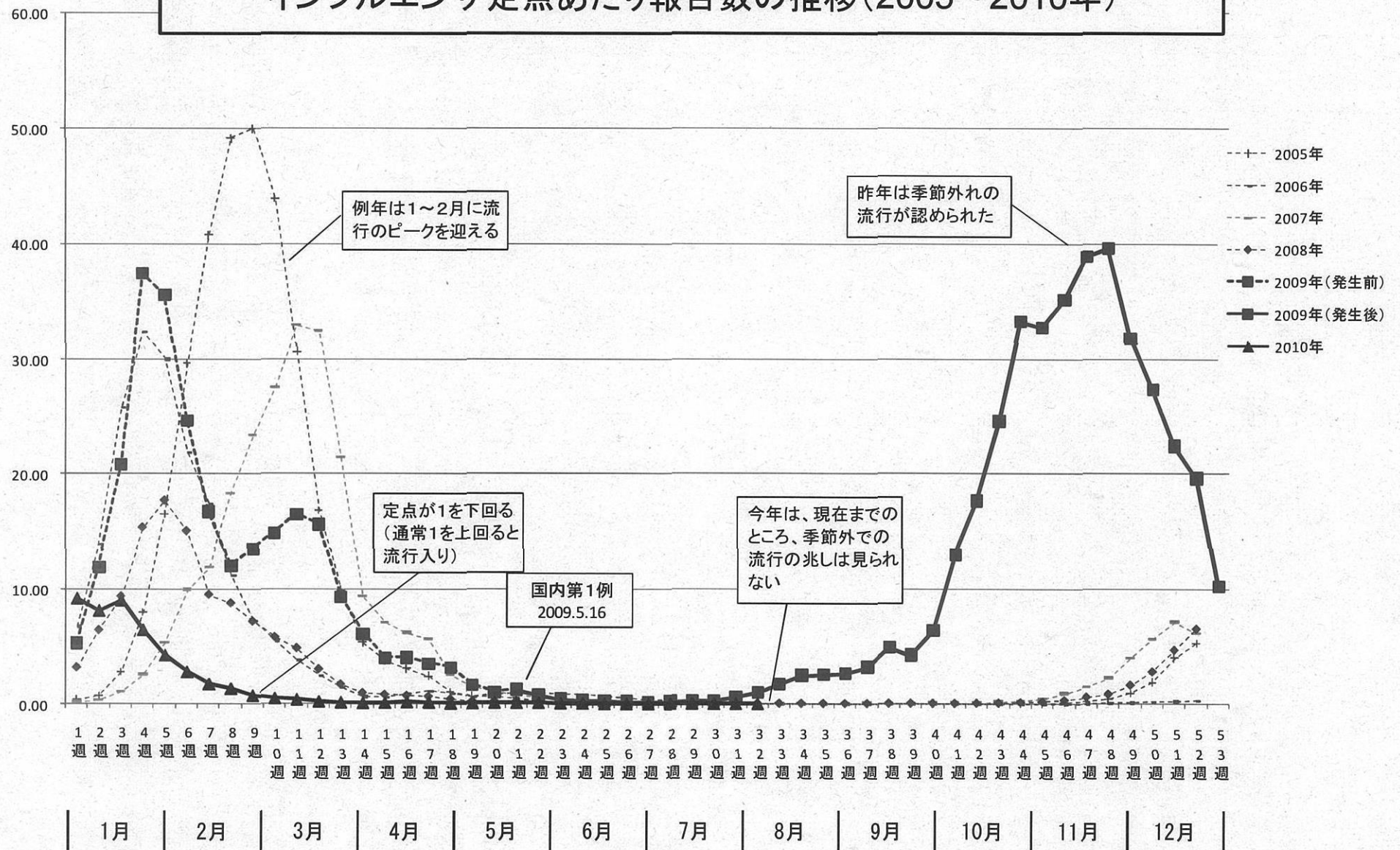
○ 今後もさらなる警戒が必要。

○ WHOは、ポストパンデミック期においても引き続き、サーベイランス、ワクチン接種、医療提供の実施を勧告。

Ⅱ 現在の我が国の状況

- ① これまでに、約2,100万人の患者が受診したと推計され、また、約1,800万人がワクチン接種を受けたと推計されるなど、国民の一定数は新型インフルエンザ(A/H1N1)に対する免疫を獲得していると考えられる。
- ② 今年、4月以降現在までのところ、昨年のような季節外でのインフルエンザ様疾患の流行的発生は見られていない。また、少数ながら発生した患者から検知されたインフルエンザウイルスは、海外と同様、季節性インフルエンザ(A/H3N2、B)と新型インフルエンザ(A/H1N1)が混在している。
- ③ このため、我が国においても、パンデミック状況は去ったと考えられる。ただし、新型インフルエンザ(A/H1N1)のウイルスは引き続き存在しており、今年度(2010/2011シーズン)における流行的発生に対して警戒を要する状況である。

患者発生サーベイランス
インフルエンザ定点あたり報告数の推移(2005～2010年)



新型インフルエンザ推計受診患者数

	インフルエンザ様症状で医療機関を受診した推計患者数(万人)	人口(万人)(※)	年齢別階級人口に占める割合(%)
総計	2,077	12,755	16.3

年齢階級別	0～4歳	229	539	42.5
	5～9歳	520	572	90.9
	10～14歳	476	597	79.7
	15～19歳	280	609	46.0
	20～29歳	219	1,455	15.1
	30～39歳	155	1,838	8.4
	40～49歳	100	1,629	6.1
	50～59歳	47	1,713	2.7
	60～69歳	17	1,753	1.0
	70歳～	15	2,049	0.7

※2009年28週から2010年32週までの累計。

※年齢階級別人口は、総務省「人口推計(平成21年6月1日現在人口確定値)」による。

※推計受診患者数及び人口は1000桁を四捨五入するため、総計と年齢階級別の合計は一致しない。

新 型 イン フ ル エ ン ザ (A / H 1 N 1) ワ ク チ ン 被 接 種 回 数

《平成21年10月～平成22年6月分推計数(平成22年7月28日現在)》

(単位:回)

	1回目	2回目	合計
医療従事者	2,182,618	10,186	2,192,804
基礎疾患を有する者	6,843,434	452,018	7,295,452
妊婦	443,405	6,601	450,006
1歳～小学校3年生	2,928,825	2,236,759	5,165,584
1歳未満の小児の保護者及び優先接種対象者のうち身体上の理由により予防接種が受けられない者の保護者等	423,144	8,284	431,428
小学校4年生～6年生	363,516	259,570	623,086
中学生に相当する年齢の者	378,869	8,212	387,081
高校生に相当する年齢の者	357,661	1,040	358,701
65歳以上の者	2,700,960	3,499	2,704,459
1歳未満の者	29,598	5,139	34,737
上記以外の者	1,684,728	6,495	1,691,223
合計(注)	18,336,758	2,997,803	21,334,561

(注)合計には、輸入ワクチン(ノバルティス社製) 1回目74件、2回目12件を含む。

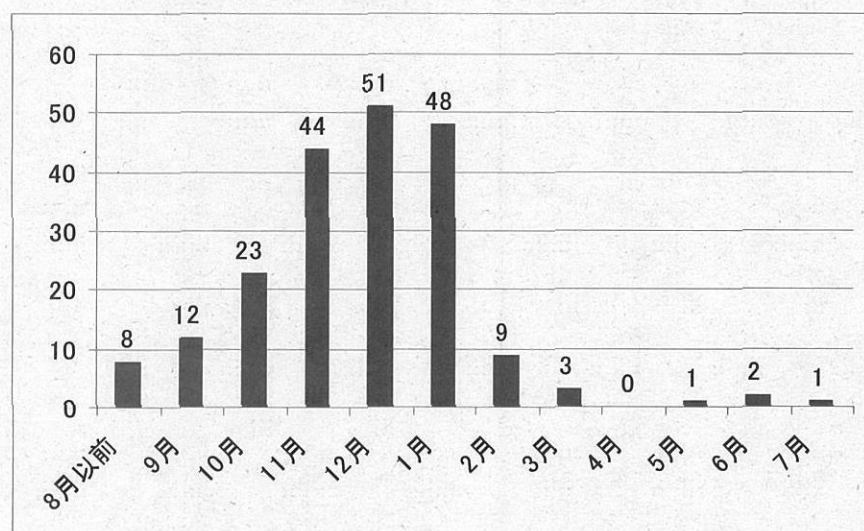
※各月の報告数をもとに、総務省「人口推計(平成20年10月1日現在)」の都道府県別人口(総人口)により推計。
報告のあった都道府県においても、すべての受託医療機関からは報告を受けていない。

※1回接種回数合計が、おおむね接種人員数に当たるものと推定される。

新型インフルエンザ(A/H1N1)による死亡者の推移等

(平成22年8月25日現在)

(1) 死亡者(202名)の月毎の推移



新型インフルエンザによる死亡者は、流行の増減に比例して推移している。

なお、新型インフルエンザによる死亡者は202名で、季節性インフルエンザによる死亡者と比較して少ない。

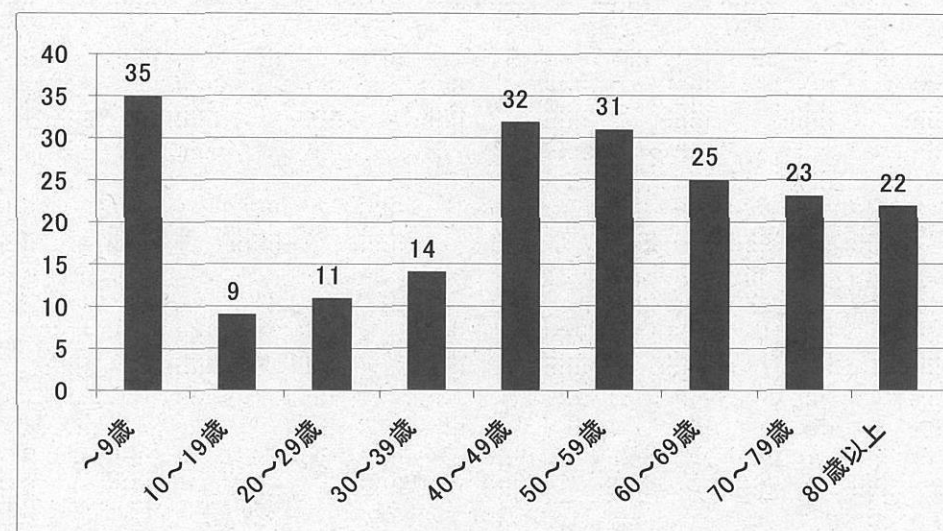
(参考) 季節性インフルエンザの死亡者数(※)

H20.1.1-12.31(過去5年で最も少ない) 272人

H17.1.1-12.31(過去5年で最も多い) 1,818人

※ 人口動態調査において、死因分類別にみた、インフルエンザによる死亡数。

(2) 死亡者(202名)の年齢別内訳

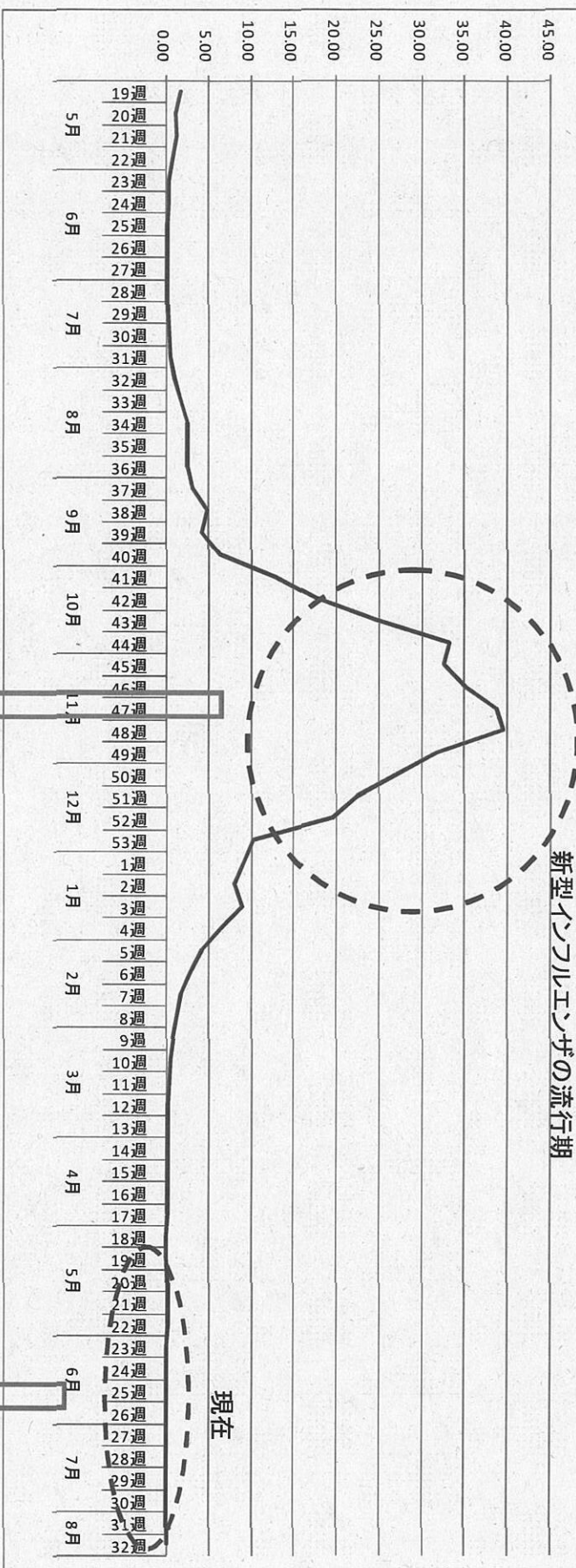


新型インフルエンザによる死亡者数は、0～9歳において顕著に高く、40歳以降の中高年にも多い。

インフルエンザ患者のウイルス型状況(週別)

(平成22年8月25日現在)

患者サーベイランスによる流行状況



流行期のウイルスの型別状況

現在のウイルスの型別状況

2009年

10月

11月

12月

新 型	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週
A(H1)pdn	995	1,026	1,399	1,655	1,430	1,553	1,572	1,399	1,421	1,282	1,021
A(H1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A(H3)	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
季節性	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
B											

2010年

6月

7月

8月

新 型	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週
A(H1)pdn	13	5	9	5	1	6	9	5	3	2	7	5
A(H1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A(H3)	3	2	0	6	1	0	2	6	5	2	14	1
季節性	8	4	4	0	2	2	0	2	3	2	0	1
B												

季節性インフルエンザウイルスはほとんど検出されず

新型インフルエンザと季節性インフルエンザ(H3、B)のウイルスが混在